

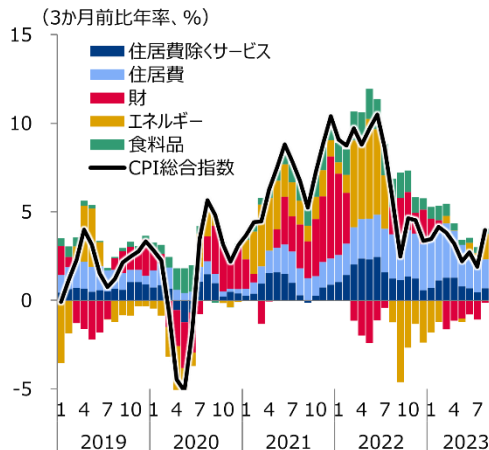
米国

消費者物価指数（2023年8月）

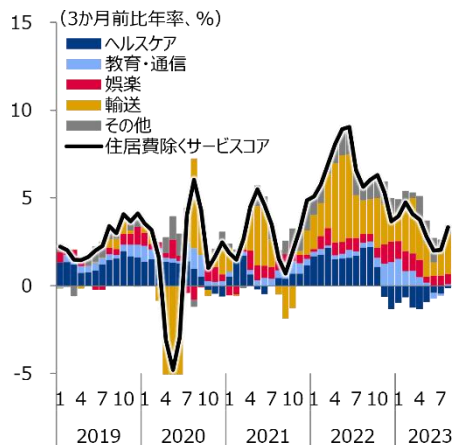
原油価格上昇とストライキの増加がFRBのインフレ抑制を困難に

政策・経済センター
浅井優汰
03-6858-2717

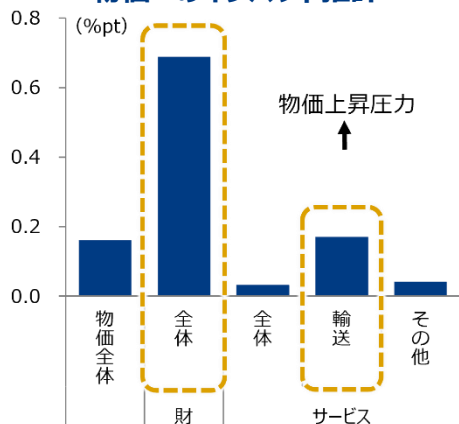
1 消費者物価（総合）

注：直近は23年8月。
出所：米国労働省より三菱総合研究所作成

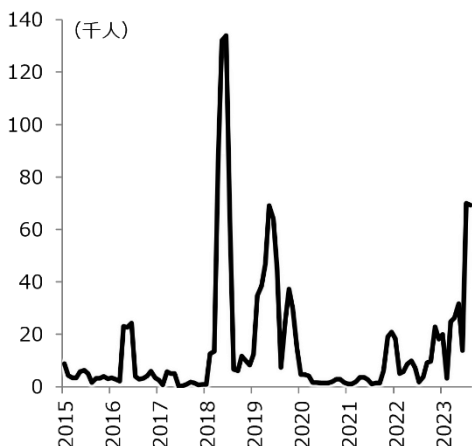
2 住居費除くサービスコア物価

注：直近は23年8月。
出所：米国労働省より三菱総合研究所作成

3 原油価格10%ptの上昇による物価へのインパクト推計

注：産業連関表を用い、生産コストのうち、原油関連項目の価格が10%上昇した場合の物価上昇率を推計。
出所：OECD、米国労働省、米国商務省より三菱総合研究所作成

4 ストライキ参加人数

注：ストライキ参加人数は3か月移動平均値。直近は23年8月。
出所：米国労働省より三菱総合研究所作成

評価ポイント

今回の結果

- 8月の消費者物価指数は、総合が前月比+0.6%（前月同+0.2%）、変動の大きなエネルギー・食品を除くコアは同+0.3%（前月同+0.2%）と伸びが拡大した。3か月前比年率では、総合が+4.0%（前月+1.9%）と伸びが加速した一方（図表1）、コアは+2.4%（前月+3.1%）と伸びの鈍化が続いている。
- 総合指数の項目別では、原油価格の上昇を受け、エネルギー（図表1■）が全体を押し上げた。FRBが政策運営上注視する住居費除くサービスコア物価は3か月前比年率+3.3%（前月同+2.0%）と伸びが拡大した（図表2）。

基調判断と今後の流れ

- インフレの伸びは緩やかな鈍化傾向を維持している。もっとも、FRBの物価目標（前年比+2.0%）達成の目安となる前月比+0.17%を超える伸びが続いているほか、基調を示すコアCPIの伸びの鈍化ペースは遅く、インフレ圧力は根強い。
- 先行き、物価の伸びは緩やかな鈍化が続くと予想する。金融引き締め継続に加え、コロナ禍で蓄積された過剰貯蓄の払底や学生ローンの返済再開は、消費の下押しを通じてインフレ抑制に寄与する。しかし、①原油価格の再上昇、②根強い賃上げ圧力がインフレ抑制の妨げとなるだろう。
- ①について、23年末まで続くサウジアラビアなどの原油供給制限、米国の石油放出余地の縮小が需給を逼迫させ、原油価格は高止まりするとみる。当社は、原油価格10%ptの上昇が物価を約+0.2%pt押し上げると推計する（図表3）。特に、輸送価格の上昇はFRBが注視する住居費除くサービスコアの押し上げにつながり（図表2■）、追加利上げ・引き締め長期化が懸念される。
- ②について、労働者の賃上げ要求の高まりを受け、賃金・物価の伸びの鈍化には時間を要するとみる。21年から23年前半にかけて、物価高による実質賃金のマイナス状態が続いていた。待遇改善を求めたストライキの参加人数は急上昇しており（図表4）、企業の、人件費を価格へ転嫁する動きは当面続く見通しだ。
- 金融政策について、基調的な物価上昇率が依然高いことに鑑み、FRBは24年半ばにかけて5%超えの金利を維持、利下げは24年半ば以降とみる。